



7月7日は七夕☆



「七夕飾り」の代表ともいえる短冊は、現在では様々な形や色の物が広まっています。しかし、まだ日本に「七夕」という行事が出来たばかりの頃は、竹には紙で作った短冊ではなく、五色（ごしき）の糸を飾っていました。これが今も歌に残っている「五色（ごしき）の短冊」の始まりです。

この「五色（ごしき）」とは、中国の陰陽道から生まれた自然を表す「五行説」に因んだもので、「青」・「赤」・「黄」・「白」・「黒」が使われていました。それぞれ、青が緑の「木行」、赤は炎の「火行」、黄は大地の「土行」、白は土に埋まっている金属の材料となる鉱物の「金行」、黒は命を育む水の「水行」を表しています。また、この五つの色は人が持っているべき五徳（ごとく）という教えも表しているとも言われています。

ですが、この五色に後から全てをまとめる「色」として、古くから「最上の色」と言われていた「紫」が加わり、その代わりに黒が使われなくなっていきました。

それから、最初は糸だった飾りが「絹の布」になり、次は「詩」や「歌」に変わり、演奏や書画も加わる様になりました。しかし、「七夕」の風習が民衆に広がる頃には、そんな高価な物などは用意できないので、紙の短冊が使われるようになったのです。今年も短冊に願いをかいてみませんか？



夏といえば、色鮮やかに咲き誇る「ひまわり」

ひまわりが咲いていると夏が来たって感じがしますよね。

日本には、たくさん「ひまわり畑」があるので、自分の家の近くの「ひまわり畑」を調べるのもいいと思いますよ。

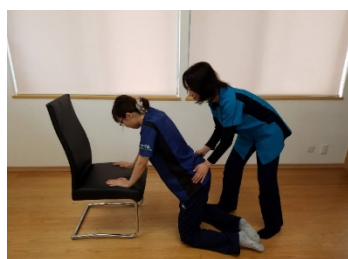
介助の仕方 ②

もし転倒したら…

★今回は台や椅子を使った方法です。



① 台を近くに置き(麻痺のある方は麻痺のない方に置きます。介助者は腰を支えます。)



② 台に手をついてもらい、膝で立ってもらいます。



③ 片膝を立て、声をかけながらゆっくりと立ち上がってもらいます。この時、腰をしっかりと持ち、立ち上がりに合わせて優しく持ち上げる様になると楽に立えます。



④ 介助者は両腰をしっかりと支えながら立たせる。(麻痺のある方は麻痺側をしっかりと支える。)

※**めかづけ**を知っていますか？

めれている所は滑りやすい

かいだん・段差がある所は転びやすい

片づけていない部屋はつまずきやすい



<担当: PT大川・PT石黒>

☆お気軽にお問合せください☆



ケアフル

訪問看護リハビリステーション

TEL 0574-49-7570

FAX 0574-49-7571

岐阜県美濃加茂市川合町2丁目7-21